

令和4年度 学校評価報告書

学校名	三田市立けやき台小学校
-----	-------------

1 学校教育目標

夢に向かって 堂々と歩む子の育成
 ～あきらめず挑戦し 自尊感情を高めるけやきっ子～
 元気で明るい子・やさしく素直な子・興味を持ち、伝え合って学ぶ子
 けやきの A(エース)をめざせ

2 今年度の学校重点目標

- ・けやきの A の育成
 「あかるくあいさつができる子」「あきらめず挑戦する子」「友だちを大切にする子」
- ・教育の専門家としての高い使命感を持ち、学び続ける教師の育成(研修・研究)
- ・「チームけやき」として学校同僚や家庭・地域との連携を大切に組織的に取り組む学校
- ・児童の自治的活動を支援する学校
- ・地域の教育力を取り入れ、学校力を高める地域連携のできる学校

3 総合的な自己評価

昨年度から、職員・保護者・児童の学校評価アンケート内容をより深く分析するため、三者の結果を比較できるようにアンケート内容の項目を整理し、学校評価アンケートの内容と文言をリニューアルして行った。今年度は、今年度の結果と共に2年の経年比較を行いながら分析した。

今年度の三者それぞれのアンケート結果も、ほとんどの項目で肯定的評価(あてはまる・少しあてはまる)の値が目標値の80%を大きく超え大変良好であった。その中において、職員の「あいさつ」と保護者の「読書」に関する結果は、80%を下回る結果となった。

「あいさつ」に関しては、本校の学校目標の一つでもある。児童評価が92%、保護者評価が84%の肯定的評価から見られるように、本校の児童は「あいさつ」ができるようになってきている。そこで、今年度はさらに「校内でも、お互いにあいさつができる学校に」という新たな目標をもうけて取り組みだした。新たな評価基準を設けたので、職員評価が下がったと考えられる。来年度以降も、学校全体で取り組んでいきたい。

「読書」については、去年度の結果を受け、本校の課題として取り組んでいる。今年度は、「家族読書の日」に加え「読書ウィーク」の設定など新たな取り組みを行った。その評価、三者評価の肯定的数値はアップしている。「読書」は、読解力や想像力、思考力など児童につけたい大切な力の向上につながる。来年度も、児童が読書する機会を設定し、学校司書や委員会と連携し環境を整え、家庭とも連携しながら、読書に取り組む習慣や本に出合う機会設けていきたい。

「学校の勉強はわかる」「学校の勉強は楽しい」「分からない勉強をしっかり教えてくれる」「学習のめあてをもち、あきらめず努力している」については、肯定的評価が85%を越えている。本校の研究「算数科」において、朝の学習タイムでの継続した算数プリントの取り組み、また、まず自分で問題と向き合い、図や絵を用いながら自分の考えを友だちと交流して学んでいく授業の取り組みの成果ととらえられる。今年度は、算数における専科が導入された。高学年の肯定的評価の結果は上昇している。

生徒指導面では、ケース会議等を実施することにより、職員が情報を共有し、より良い支援の仕方を検討し、児童に働きかけることができた。あいさつ、言葉遣い、清掃活動等も含め基本的な生活習慣については、学校・家庭・地域が連携して子どもたちを育む取り組みを今後も継続していきたい。

4 総合的な学校関係者評価

学校評価の項目を整理し経年比較することで、教育活動等についてより丁寧に検討されようとしていた姿勢に敬意を表す。

今年度も、感染症対策に気を付けながら、工夫をされて学校運営がなされたと推察されるが、校長のリーダーシップのもと、組織的・計画的に様々な教育活動を実施できた点は大いに評価できる。HP 等を用いて日頃から積極的な発信が行われていることで、学校の姿勢がうかがえる。

子どもたちの力を伸ばすため、教職員の資質向上に継続的に努めており、「学びに向かう力を育てる」というテーマで研修を深められている。子どもたちの iPad を用いての、プレゼンテーション能力の向上には驚いた。情報モラル教育とともに、今後も、子どもたちが主体的に考え、学んだことを生かせるような指導をお願いしたい。

重点的な課題と示された「読書」については、学校司書や図書館、家庭との連携を図り、取組を進めていただきたい。読書環境の整備等、地域や学校支援ボランティアとの連携も試みてほしい。

学校支援ボランティア活動については、今年度は、できることから積極的にかかわる機会を作っていただけた。継続して子どもたちと関わることで、つながりができると考える。「ボランティア通信」を発行していただき、保護者に活動を知ってもらえたことは大変うれしい。今後とも、地域での子どもたちの安全安心についても、関係機関と連携・協力を図り、学校・家庭・地域が一体となって、児童の育成に努めてまいりたい。

5 評価結果

自己評価		学校関係者評価		
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	
教育目標 教育方針	教育目標及び教育方針、学校重点目標が、児童や地域、学校の実態や、教育課題に即応している。	<ul style="list-style-type: none"> ・「けやき台小学校が好きだ」の肯定的評価が95%と大変良好である。しかし、残りの5%の児童のことを考えると、形を変えながらではあるが、コロナ前のように行事が行えた反面、日々の学習にゆとりがなくなったことが影響している可能性も考えられる。 ・感染拡大防止に努めながら、できる範囲内で、登下校の見守り隊、かたつむりさんによる読み聞かせ、がんばりタイム、授業におけるゲストティーチャー等、様々な場面で学校支援ボランティアと連携を取り、地域の方々や保護者の協力を得ながら、教育目標の達成に向けて取り組みを進められた。 ・学校行事や学級会など、あらゆる場面で児童を目標に立ち返らせ、意識付けながら取り組めた。 ・学年、クラスの目標をより意識して取り組むことで、それぞれの努力事項を意識した教育活動が行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が元気に、ゆとりをもって取り組んでいけるように、学校行事、学年行事など少しずつ見直しして、 ・毎時間の児童の学習の様子を伺い、進捗を考えるとともに、子どもたちがわかる、楽しい、ワクワクするような授業づくりを学年で協力しながら行っていく。 ・今後も感染拡大防止に努めながら、学校・家庭・地域の連携を密にし、学校教育目標の達成に向け、クラスの実態や児童の様子を担任だけでなく学年、学校全体で共有し、児童を中心に考えた教育活動を展開していく。 ・キャリア教育の視点からも、学校、学年、クラスの目標を意識し、一年を通して各教科学習や特別活動、学校行事等の各場面において、児童に目標を意識させたり、振り返らせたりする機会を継続して設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが「小学校が好きだ」と感じられていることが大きな成果である。 ・「けやきのエース」というキャッチフレーズがわかりやすく、学校全体で共有し取り組まれていることは大いに評価できる。 ・今後も子どもたちの意欲や達成感を大切にした教育活動を進めてほしい。
	めざす児童像、教師像、学校像の具現化に向け、本年度の学校重点目標を意識した指導ができています。	<ul style="list-style-type: none"> ・「けやきの A エース」の合言葉を教室の前面に掲示し、教師もその合言葉をかけることで、児童にも合言葉が浸透し、意識できています。 ・本校の研究「算数科」だけでなく、「人権教育」「特別支援教育」「生徒指導」「情報教育」「外国語科」等、計画的に職員研修を持ち、資質向上に努めることができた。 ・「めざす児童像、教師像、学校像」を意識し具現化を図るため、教師間の連携を密にするとともに、保護者・地域への協力を得ながら学校全体で子どもたちを見守っていく必要がある。 ・めざす児童像にある、あいさつに関して、さらに継続して取り組んでいくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の中で、児童をほめたり、がんばりを認めたりする等、自尊感情を高めることを意識する。また、肯定的評価の言葉がけを意識し、児童に「自己有用感」を感じさせることで、学校生活を楽しく感じさせたい。 ・今後も教師間での切磋琢磨を続け、子どもたちが勉強するのが楽しくなるような魅力ある授業づくりに一層努める。 ・今年度のデータを来年度の指導に活かすことができるよう共有ファイルに保存し、学びの継続と業務改善に取り組む。 ・生徒指導と連携し、全職員で意識して取り組んでいく。 	
教育課程	教育課程の編成(週時程・日課表・行事等)は適切である。	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画がコロナ禍以前の配置に戻り、バランスのとれた計画となった。水泳指導、校内連体、社会見学、学年活動、児童会活動等、今年度は、ほとんどの行事を実施することができた。 ・昨年度より改善されたが、職員の否定的評価が10%ある。結果、「児童一人ひとりと向き合う時間の確保」「楽しい授業づくり」を準備する時間が捻出しにくいというアンケート結果につながっているのではないかと。 ・感染拡大防止のため制限のある中、様々な学校行事を実施することができた。子どもたちは達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や学年行事など、児童がゆとりをもって取り組んでいけるよう、計画を行い、必要であれば見直し及び縮小していく。 ・各教科の年間指導時数を常に把握しながら、児童の理解度、スピードに合わせた授業計画をしていく。 ・高学年の教室の移動時間を確保し、授業の開始時刻を意識して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策に留意し、行事が実施できたことは大いに評価できる。行事を通して、子どもたちは大きく成長できる。 ・iPad が完備され、子どもたちの学習環境も様変わりする中、今の時代に合った教育活動が進められるように、今後も計画して行ってほしい。

		感を味わい、自尊感情を高めることができた。		
	各教科・領域における授業時数は適切に確保できている。	・特別の教科道徳や中学年、高学年の外国語活動、外国語科、情報教育等新しい教科、教育について研修を進めることができた。	・基礎基本の定着と、思考力、主体的に取り組む力(粘り強く学習に取り組む力、学習調整力)を伸ばせるような授業改善に今後も努めていく。 ・年間授業時数を意識した行事計画を行っていく。 ・若手教員の育成に向けて、学年を中心に授業交換や授業参観を行い学ぶ場を設ける。また、授業研究に取り組み積極的に授業公開を行っていく。	
学習指導	各教科の基礎的・基本的な内容を確実におさえ、評価の基準を定め、指導方法を工夫して理解の徹底を図ることができている。	・「学校の勉強はわかる」の肯定的評価は96%で去年度より2%アップし、高評価である。 ・学年で、授業研究と共に評価ポイント、評価方法を話し合い、共通理解のもと、計画的に指導を進め評価できた。	・本校の研究「算数科」の授業研究・研修を今後も続け、問題を解く過程を説明していく対話的活動を取り入れながら、思考力を育成する授業に取り組んでいく。 ・読む・書く・話す等、国語科で培った言語力を他教科でも生かせるような教科横断的な取り組みの推進をしていく。 ・学びの基礎である基本的な計算力や漢字の定着を目指して、計算練習・漢字練習の時間や補充学習の時間の確保を継続する。朝の学習タイム(計算)を継続する。	・算数科の授業研究を中心に、先生方が共通理解しながら学校全体で取り組まれていることが、子どもたちの力に結びついている。「楽しい授業」「よくわかる授業」を今後も追求して行ってほしい。 ・教育活動全体で、子どもたちが活躍する場面を増やし、今後も意欲や達成感を感じられるように取り組んでほしい。 ・学校は、「学習の楽しさ」「学習する意味」を教えるところだと思う。決して「答えや正解を教える場」ではないので、そのような教育を今後も続けてほしい。
	確かな学力を身に付けさせるように、自ら学習する意欲を高める、工夫ある授業づくりに努めている。	・「学校の勉強は楽しい」は、否定的評価が8%から11%と、昨年度より増加 ⇒今年度は、コロナ禍前の行事や活動がほとんど行うことができ、結果的に教師、児童共にゆとりがもちにくかったのではないかと。 ・学年で授業について打ち合わせの時間を取り、授業研究を進めることができた。 ・ノートを大型モニターに映して自分の考えを説明したり、プレゼンテーションソフトを用い、調べたことをまとめて発表したりするなど、授業においてiPadを効果的に使っている。 ・「家庭学習に自主的に取り組む」においては、肯定的評価が、保護者84%、児童90%と高評価だが、他項目に比べると少し課題が見える。	・学校行事や学年行事など、ゆとりのあるとりくみとなるよう、見直し及び縮小することで、教材研究、授業づくりに費やす時間を増やす。 ・児童が思わず引き込まれる、考えたくなる、熱中できるような授業を展開できるよう、校内や学年でさらに授業研究に取り組む。	
	個々の児童の到達段階の把握に努め、一人ひとりの基礎学力づくりに取り組んでいる。	・「先生たちは分からない勉強をしっかりと教えてくれる」は去年と同程度で、肯定的評価が97%と高い。 ・各教科において、授業のめあてとふりかえりを意識して取り組めた。	・「がんばりタイム」を継続して実施し、児童の基礎学力づくりができる体制を整える。 ・今年度の児童の実態を次年度に引き継ぎ、児童一人ひとりに有効な指導を続けられるようにする。 ・ふりかえりを、自己調整力に結び付けて、粘り強く学習に取り組む力の育成を目指す。	
	夢を持ち、挑戦する意欲を育てることができている。	・三者とも、肯定的評価が95%以上である。 ・4年生、6年生の総合や道徳科、キャリアノートなど各学年で計画的に、自分を見つめ振り返ったり、未来について考えたりする時間を持っている。 ・子どもたちの自治的、自主的な力の育成を目指し、全学年で学級会活動に取り組めた。	・授業だけでなく、学校行事、クラスの当番活動や係活動、高学年の委員会など、場面ごとに、めあてとふりかえりを大切にし、挑戦できているか、最後まで取り組めたかを考える機会を通して達成感を味わわせていく。 ・一人ひとりが大切に必要活動を行っていることを認め合い、「自己有用感」を感じさせていきたい。	
生徒指導	学校いじめ防止基本方針に基づき、校長・教頭の指導のもと、全職員が連携し、問題行動や不登校、いじめ等の問題に組織的に取り組んでいる。	・三者評価とも90%以上で高評価である。 ・いじめ等の緊急の指導事案、児童の抱える問題等について、生活指導委員会を中心に、組織的に取り組んでいる。 ・職員打ち合わせの場で、児童交流をおこない職員の共通理解を図ることができた。 ・ケース会議を実施し、SSW・SC・指導補助員とともに児童に対し、よりよい支援方法を検討している。 ・携帯・スマホ・SNS等の問題について、1～6年生まで発達段階に応じた動画を見て学習を行った。	・児童が誰かに相談しようと思えるための意識付けや、相談しやすい環境、時間の確保など継続して行う。 ・今後も、問題行動や対応事案等、指導内容等を諸対応メモにまとめ、回覧し、関係職員、教員全体で共通理解を図る。 ・学校・家庭・地域が連携して子どもたちの成長を見守っていく体制づくりを推進する。 ・今後も、SSW・SC・指導補助員や関係機関との連携を深め、児童に対し様々な方面から支援の方法を検討していく。 ・携帯・スマホ・SNS等の問題についての指導については、今後も全学年で継続して指導を続ける。	・地域で子どもたちと出会う時にも、気持ちのよいあいさつがかえってくるのが成果として表れている。 ・今年度から取り組まれている、校舎内でのあいさつについても、子ども達から「こんにちは」と声をかけてもらい、よくできていると思う。 ・「あいさつ」は、家庭が基本。学校だけでなく、家庭と地域も共に取り組んでいきたい。 ・刻々と変化するネットやSNSの問題については、児童の実態をしっかりとらえ、積極的に指導して行ってほしい。家庭との連携も大切である。 ・iPadやスマートフォンなど、子どもたちが、その使い方の先に起こる結果を予想できるかが大切なので、間違った使い方をした結果どのようなことが起こるかということも、指導して行ってほしい。 ・登下校や地域でくらしの中でも、安全安心が確保されるよう、関係機関と連携し取組を進めていくことが大切である。 ・近所との付き合いが希薄になる中、心を許せる人がいることが身近にいることが大切。地域のつながりを考えていかねばならない。子どもたちは、気持ちを許せる人に対しては、しっかりとあいさつできている。
	あいさつや清掃、その場に合った言葉遣いなどの基本的な生活習慣・マナーを確立するように指導ができている。	・「あいさつ」は、職員74%、保護者84%、児童92%の肯定的評価結果となり、三者に意識の開きがある。⇒職員に関しては、今年度から「校内でも挨拶ができる児童」を目指し取り組んでいるため厳しい結果となったと考えられる。 ・登校中のあいさつができる児童は増えてはいる。地域の中での自発的なあいさつは、難しい。 ・「愛ありがとう集会」を通して、「感謝」や「あいさつ」の意義を考えることができた。子どもたちが実生活における「あいさつ」に意欲を持つ機会となった。 ・「そうじ」は、職員87%、児童96%の肯定的評価と、高評価ではあるものの、とらえ方に差が生じた結果となった。 ・「あったかことば」は、三者とも肯定的評価が90%以上と高評価である。 ・あったか言葉、場に応じた言葉遣いや、相手のことを考えて話すことなど、特別の教科道徳での指導も含め、指導してきた成果が表れている。	・児童と共にあいさつの目標を共通確認する。 ・全職員が意識して、クラス学年に関わらず声をかけることで、意識改革を促すなど、校舎内のあいさつもできるように全職員で取り組む。 ・家庭・地域と連携し、日頃から生活の場において、あいさつの大切さを伝えていく。 ・あいさつや言葉遣い、掃除など、できていることに対して肯定的評価を意識して増やしていく。 ・掃除の仕方「けやきモデル」を提唱していく。 ・掃除に対しては、方法の指導だけでなく、その意味を児童とともに考えていくとともに、掃除や整理整頓については、家族の一員としての役割を保護者とともに考えていきたい。	
特別支援教育	特別な配慮や支援を要する児童の児童理解に努め、指導に活かしている。	・特別な支援を要する児童について、個別の指導計画や教育の支援計画を適切に作成し、それらを活用することができた。 ・職員会議、職員打ち合わせの場で、児童の状態や情報を共有し、対応できた。	・継続して、児童理解研修会や特別支援に関わる研修を計画的に行っていく。	・子どもたちのことを丁寧に理解し、計画的に取組を進められており、今後も同様の体制を整備して行ってほしい。 ・十分な人員の確保についても強く望む。
	学校や関係機関、家庭との連携調整を図り、支援体制を充実させている。	・校内委員会の設置、特別支援コーディネーターとの連携、職員研修の実施等、特別支援のための校内支援体制が整備され、適切な支援が行われた。	・職員間で児童の状況を共有し、支援が必要な児童に適切な支援が行えるように、全職員が協力し、今後も継続して体制を整えていく。	
保護者・地域住民との連携	PTA・地域ボランティアとの連携により、教育環境整備を行い、地域の核となる学校づくりを進めている。	・三者とも肯定的評価が95%以上と高評価である。 ・保護者に校内の様子をより分かりやすく伝えるため、HPを頻りに更新し、本校の取り組みを発信することができた。 ・年間計画に基づき、学校支援ボランティアと連携して教育活動を行うことができた。 ・ボランティア通信の発行やボランティア交流会を実施することができた。	・HPの定期的な更新、ボランティア通信等、情報発信を継続して行う。 ・学校支援ボランティアとの連携を深め、小学校の教育活動について保護者及び地域の方々をボランティアとして招き、支援していただく活動を今後も行っていく。活動内容等、データを残し継続して取り組みやすい仕組みを作る。 ・ゲストティーチャーとの取り組みを、来年度以降もスムーズに連携が取れるようにデータ化して記録を残していく。	・HPや学校だより等を有効に活用し、学校の取組を積極的に発信されていることは大いに評価できる。 ・今後も学校支援ボランティア等を積極的に活用してほしい。 ・「ボランティア通信」は、保護者に活動を知ってもらう機会になり、保護者との横のつながりを持つ事ができた。感謝している。

学力向上 指導改善	「学びに向かう力を育てる」算数科の授業づくりを行い、「思考力の育成」に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「算数科の学習で、自分の力で考えたり、みんなと交流しながら自分の考えを伝えたりしている」は肯定的評価が92%であり良好である。 ・今年度から高学年の算数科において専科指導が開始された。去年度と比べると、肯定的評価が、5年生90%→97%、6年生83%→87%と上昇している。 ・自分の意見や考え方を発表し、交流を重視した研究の方向性を職員で共有し、学年で取り組み、その積み重ねが主体的に取り組む児童の姿につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの児童も自信を持って、「あてはまる」を選べるように、学校全体で研究に取り組んでいく。 ・学習に困難な児童に寄り添う課題意識を持ち続け、放課後やがんばりタイム等でフォローしていく。 ・朝の学習タイムを継続し、計算力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重点的な課題と示された「読書」については、学校と家庭が連携した取り組みが必要である。また、読書がしやすい環境をつくっていくことも重要である。 ・「読みなさい」という声掛けだけではなく、教師も親も、隙間時間などに自分の好きな本を紹介したり、読み聞かせをしたりする、読んでいる姿を見せたりすることも大切。何かきっかけがあると、子どもは変わるので、興味を持たせ、やる気にさせてほしい。 ・学力だけでなく体力や主体性など、総合的に子どもたちを伸ばすよう今後も取り組んでほしい。
	すこやかな体づくりをめざした取り組みを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「体育の時間や休み時間に進んで運動したり、体を動かしたりしている」の肯定的評価は91%であり良好である。 ・体育委員会で大縄大会企画し、3学期の休み時間、多くの児童が外で大縄の練習に取り組めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、状況に対応しながら、体育委員会の児童を中心に、大縄大会など積極的に運動に取り組める活動を企画していく。 ・なわとびや鉄棒カードを作成し、休み時間や放課後にも、目標をもって意識的に運動に取り組めるよう計画する。 	
	自主的により良い学校づくりに取り組もうとする児童を育てることができている。	<ul style="list-style-type: none"> ・三者とも、肯定的評価が95%以上と良好です。 ・一年生を迎える会、けやぎネス、運動会、6年生を送る会、感謝の集い等行うことができた。 ・学年、学級目標を意識し、特別活動での話し合い活動、係活動や委員会活動を通して、より良い学級や学校を作ろうとする意欲の育成が図れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、児童が自主的に取り組める活動の可能性を考え、年度初めに年間予定を明確に立てておく。 ・学級会の持ち方、話し合い活動の進め方を特活委員会を中心に校内で職員研修をしたり、授業公開をしたりし、児童の話し合い活動の推進に努めたい。 	
	読書好きの児童を育てることができている。	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と比較すると、児童アンケート「本を読むことが好き」肯定的評価82%→87%。保護者アンケート「子どもはよく読書をしている」肯定的評価60%→63%。職員77%→93%であった。去年度より、数値は上昇しているが、本校の課題ととらえられる。 ・今年度は、毎月23日の「家族読書の日」を全校で徹底し、宿題を読書とした。 ・今年度新たに、11月に読書ウィークを設定し、全校朝読書を行った。 ・学年が上がるにつれ読書する時間が取りにくい傾向がある。 ・三田市読書通帳を紛失している児童が多かったため、読書通帳の管理や活用の再確認を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度、読書ウィークは、回数を増やし学期に一度実施する。 ・週に一度は図書室に入室するように声かけをする。 ・今後も、学校と家庭とが連携する。毎月23日の「家族読書の日」の意識を徹底し、宿題などで読書を出し、本を読む時間を確保していく。家族読書の日には、どんな本を読んだのか確認したりして、読書力向上を促す。 ・国語科の中で、多読、おすすめの本紹介、ビブリオバトルなど、学年に応じて取り組み、本に触れ合う機会を持てるようにする。 ・学校司書と協力して、学年文庫の充実を図る。 	
人権教育	一人ひとりが大切にされる集団の中で、つながりを深め、自尊感情を育み、確かな学力と差別を許さない人権意識を育てている。	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的評価が95%以上と高い。 ・今年度は、ハートフル参観、学級集会を持つ事ができたが、学級集会の参加者が少ないのは課題である。 ・学年で教材研究を進め、特別の教科道徳の学習を進めることができた。 ・人権教育について職員研修を持つ事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハートフル参観を軸とし、今後も、学級集会の場でも保護者への啓発を行っていく。 ・今年度の参加型学級集会のように、よりよい学級集会の持ち方を検討していく。 ・学級集会へ少しでも多くの保護者に参加してもらえるように、学年通信でも呼びかけたり、内容を知らせたり工夫していく。 ・各学年で、授業の指導案やワークシート等をデータ保存し、前年度の指導をもとに積み上げていく。 ・来年度も、人権について講師招聘し研修を継続して行う。 ・LGBTについての指導を充実させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育については、一人ひとりが大切にされる地域や社会の実現のためにも、積極的に取り組んでほしい。保護者・地域とともに学んでいきたい。
保健・安全管理	「新型コロナウイルス感染拡大防止」に向けて、組織的に対応と指導を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・3者とも、肯定的評価が95%以上と大変良好だった。 ・手洗い、消毒、行間休みの体調チェックが児童に浸透している。 ・始業式や終業式など節目において、感染症対策の意識が薄れないよう全校生を対象とした指導が行えた。 ・学校での感染症対策の取り組みを「ほげんだより」等で保護者に発信できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、マスクの着用、消毒など今後も継続した指導で維持、向上できるように意識を高く持つ。 ・各学年の児童の実態に合わせ、感染拡大防止につながる学校生活における細やかな指導や、その心遣いや行動が友だちを大切にすることに繋がるという指導を行っていく。 ・様式トイレがそれぞれに設置されたが、今後もトイレの改修要望を市に対して継続して上げていく。 ・事故防止、防犯対策、緊急時対応に関しては、今後ともスピード感を保ち、適切な配慮と指導を心掛けて行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染拡大の時期もある中で、学校として最大限の取組をされたこと大いに評価する。 ・感染症対策とともにある学校生活が3年経過しようとしている。マスク生活が通常となっている子どもたちが心配。 ・1.17集会では、4年生の学習の取り組みを見て、iPadの活用力に驚いた。2年生、3年生と共に防災について体験活動ができて良かった。
	校内では施設点検を定期的実施し、校外では保護者・地域と連携して、児童の安全を守る取り組みができている。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、職員評価とも、肯定的評価が95%以上と大変良好だった。 ・児童が訓練を通して、安全を確保するための方法について学んでいく機会を持てた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、定期的に安全点検、避難訓練を行うことで、危険予測、回避能力を養っていく。 	

6 学校自己評価の実施状況について

時期	内容
5月28日	運動会アンケート実施
10月29日	音楽会のアンケート実施
12月1日	後期教職員学校評価実施 児童・保護者アンケート実施 校内図工展アンケート実施
1月11日	教職員学校評価、児童・保護者アンケートの分析検討
1月30日	学校評価職員会議
2月11日 2月20日	学校関係者評価委員会の学校関係者評価 学校関係者評価を受け、次年度へ向けた方策検討

7 学校関係者評価委員会(学校地域運営協議会)の活動について

時期	内容
6月11日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営方針 ・地域運営協議会の構成と年間計画 ・去年度の学校評価まとめと今年度学校評価について
5月28日(土)	・運動会参観及び意見徴収
10月8日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、学習状況等について ・学力向上改善プランについて
10月29日(土)	・音楽会参観及び意見徴収
12月1日(木)	・校内図工展の参観及び意見徴収
2月11日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート結果・学校自己評価・総合的な学校評価について報告と次年度への改善内容について ・今年度のまとめ

8 学校評価の公表について

時期	手段	内容	添付
4月	PTA 総会・ホームページ	学校評価結果を踏まえて、今年度の目標や指導方針を説明	
適宜	学校便り・学校掲示板	学校評価に基づいた指導について、適宜周知するとともに、自己評価結果及び改善策について保護者に配布(3月)。	
3月	PTA全体役員会・ホームページ	自己評価及び関係者評価を公表	